



ユニチカ株式会社

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月21日

2024年 3月期実績

- › 多くの用途で需要が低迷し、流通在庫の適正化に時間を要した影響を受け、期間を通して販売量が減少した。価格改定を実施した効果により売上高はわずかに増収となった。
- › 原燃料価格の高止まり、円安の進行、減産影響や在庫過多などによるコストアップに対し、価格改定やコストダウンで補い切れなかったことと、東南アジアにおいて安価な海外品との競争が激化したことで収益性が大幅に悪化し、営業赤字に転落した。
- › 外貨建資産の評価益を中心に為替差益26億円を計上。また、不織布事業、産業繊維事業、衣料繊維事業の事業用資産に対し、減損損失39億円を計上。当期純損失54億円という赤字決算となった。

2025年 3月期 業績予想

- › 足元の黒字化が急務であり、最優先で取り組む。市場環境の変化、需要回復の機会をとらえ、販売量回復、在庫適正化、生産数量増を実現する。経費削減などのコストダウン、価格改定の実施等の収益改善策を推進。より付加価値の高い製品を拡販し、収益を確保する。
- › 構造的な要因で低採算が続く事業については、事業規模縮小を視野に入れた構造改善に取り組み、中長期での収益基盤の安定化を図る。
- › 売上高は1,200億円（前期比+17億円）、営業利益は30億円（同+55億円）、当期純利益は4億円（同+58億円）を見込む。

- 1 2024年3月期 決算概要**
- 2 各事業セグメントの状況**
- 3 2025年3月期 業績予想**

売上高

1,183億円 (前期 1,179億円 / 前期比 +4億円)

電気電子用途、食品包装用途などの需要低迷と流通在庫の調整により販売数量が減少。価格改定の実施により売上高はわずかながら増収。

営業利益

▲25億円 (前期 13億円 / 前期比 ▲38億円)

販売減に伴い生産量が減少。減産の影響、原燃料価格の高止まりや円安の進行によるコストアップに対し、価格改定を実施するも補いきれず。東南アジアを中心に、海外競合製品との販売競争激化の影響を受けて収益性が大幅に悪化した。

経常利益

▲10億円 (前期 11億円 / 前期比 ▲21億円)

円安による外貨建資産の評価益を中心に、為替差益26億円を計上。

当期純利益

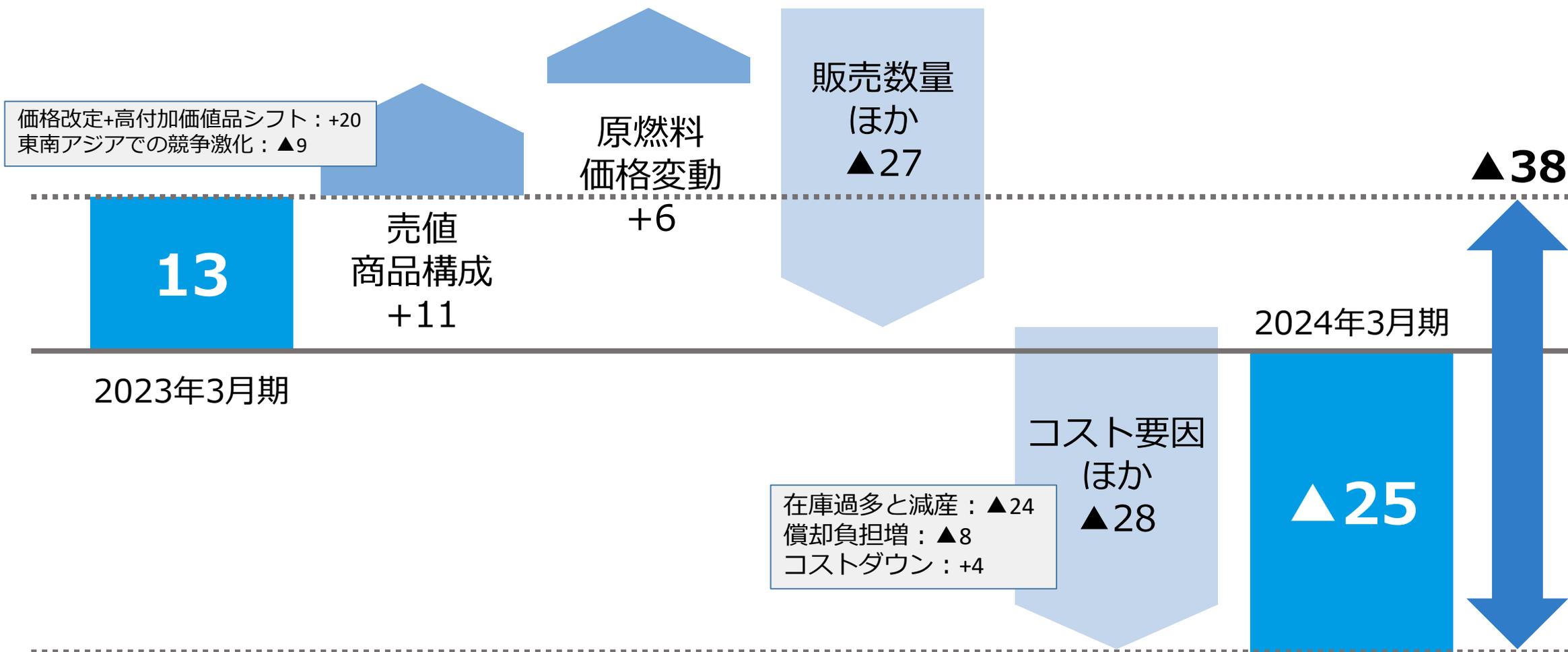
▲54億円 (前期 1億円 / 前期比 ▲55億円)

不織布事業、産業繊維事業、衣料繊維事業の事業用資産に対し、減損損失39億円を計上。

連結合計 (単位：億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前々期比	前期比
売上高	1,147	1,179	1,183	+36	+4
売上総利益	279	238	189	▲90	▲49
営業利益	60	13	▲25	▲85	▲38
営業利益率	(5.2%)	(1.1%)	(▲2.1%)	—	—
経常利益	64	11	▲10	▲74	▲21
特別利益	7	7	0	▲6	▲7
特別損失	37	10	46	+9	+35
当期純利益	22	1	▲54	▲77	▲55
減価償却費*	47	47	55	+8	+8
設備投資*	76	76	68	▲8	▲8

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



(金額単位：億円)	2023年 3月末	2024年 3月末	前期末比 増減
資産合計	1,900	1,863	▲37
流動資産	748	728	▲21
固定資産	1,152	1,136	▲16
負債合計	1,461	1,481	+20
純資産合計	439	382	▲57
株主資本	390	333	▲57
その他の 包括利益累計額	31	35	+4
非支配株主持分	18	15	▲3

(金額単位： 億円)	2023年 3月期実績	2024年 3月期実績	前期比 増減
営業活動CF	5	82	+77
投資活動CF	▲81	▲75	+6
財務活動CF	▲17	▲3	+14

(金額単位： 億円)	2023年 3月末	2024年 3月末	増減
現金・現金 同等物残高	96	102	+6

営業CF：棚卸資産増減額 前期比+89億円

投資CF：前期比 設備投資13億円減少

財務CF：前期比 借入22億円増加など

セグメント別 (金額単位：億円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,179	1,183	+4	+0.3%
高分子事業	500	511	+11	+2.2%
機能資材事業	344	342	▲2	▲0.6%
繊維事業	335	330	▲5	▲1.4%
その他	1	1	▲0	▲20.0%
営業利益	13	▲25	▲38	-
高分子事業	33	6	▲27	▲81.7%
機能資材事業	▲5	▲25	▲19	-
繊維事業	▲14	▲5	+8	-
その他	▲1	▲1	+0	-

※2024年3月期より一部の連結子会社のセグメント変更を行っております。

本資料で表示する2023年3月期のセグメント別数値は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

金額単位：億円	2023年 3月期	2024年 3月期	増減
売上高	500	511	+11
フィルム	333	335	+2
樹脂	126	134	+8
他	41	42	+1
営業利益	33	6	▲27

フィルム事業

包装用フィルムは、食品包装フィルムの販売は減少したが、価格改定の実施と高付加価値品の増販により増収。

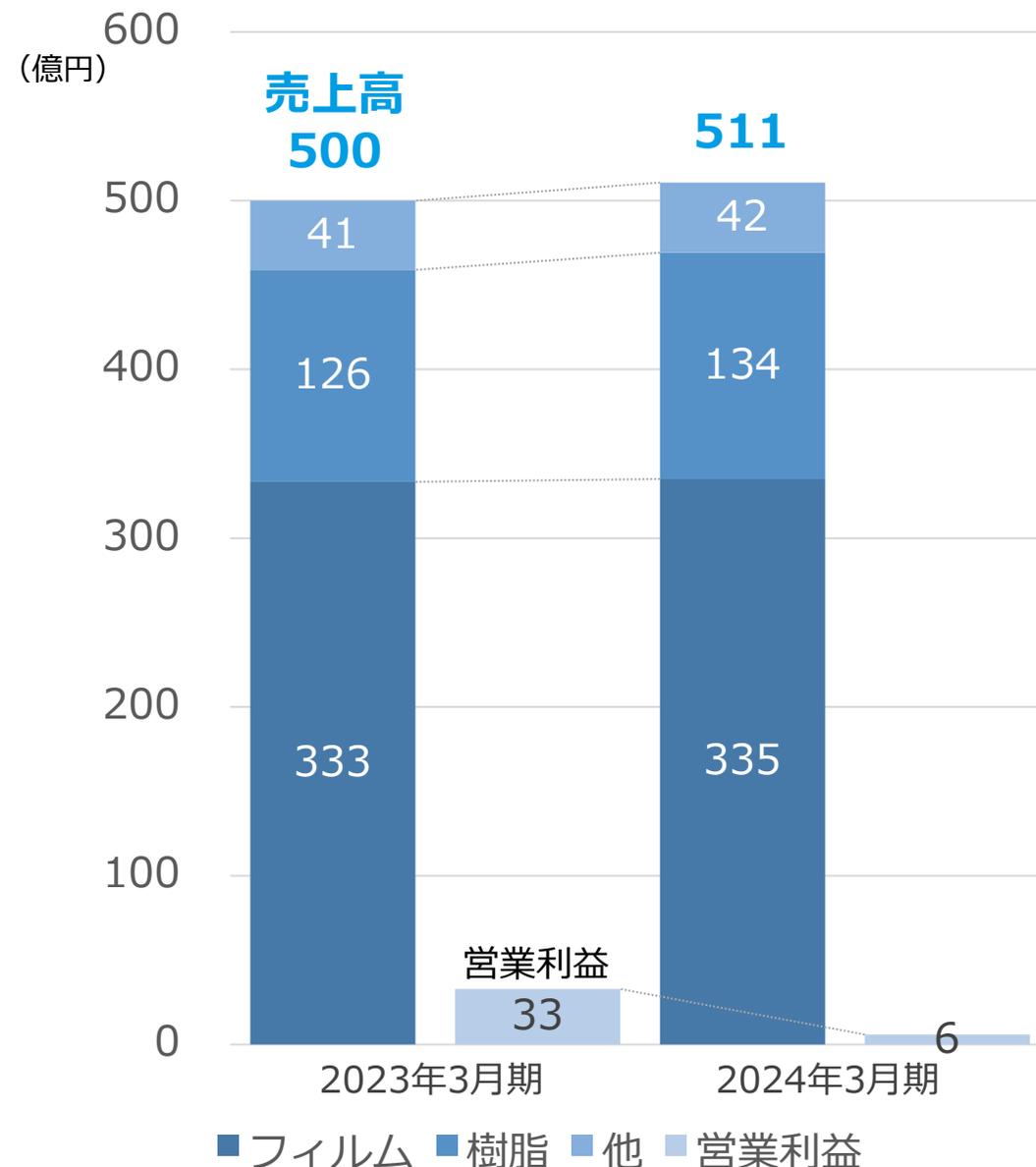
工業用フィルムは、電気電子・半導体用途の需要が戻らず。

樹脂事業

エンプラは川下の需要低迷が続き販売減。接着剤・コート剤向け機能樹脂の販売は堅調。価格改定の効果で事業全体で増収。

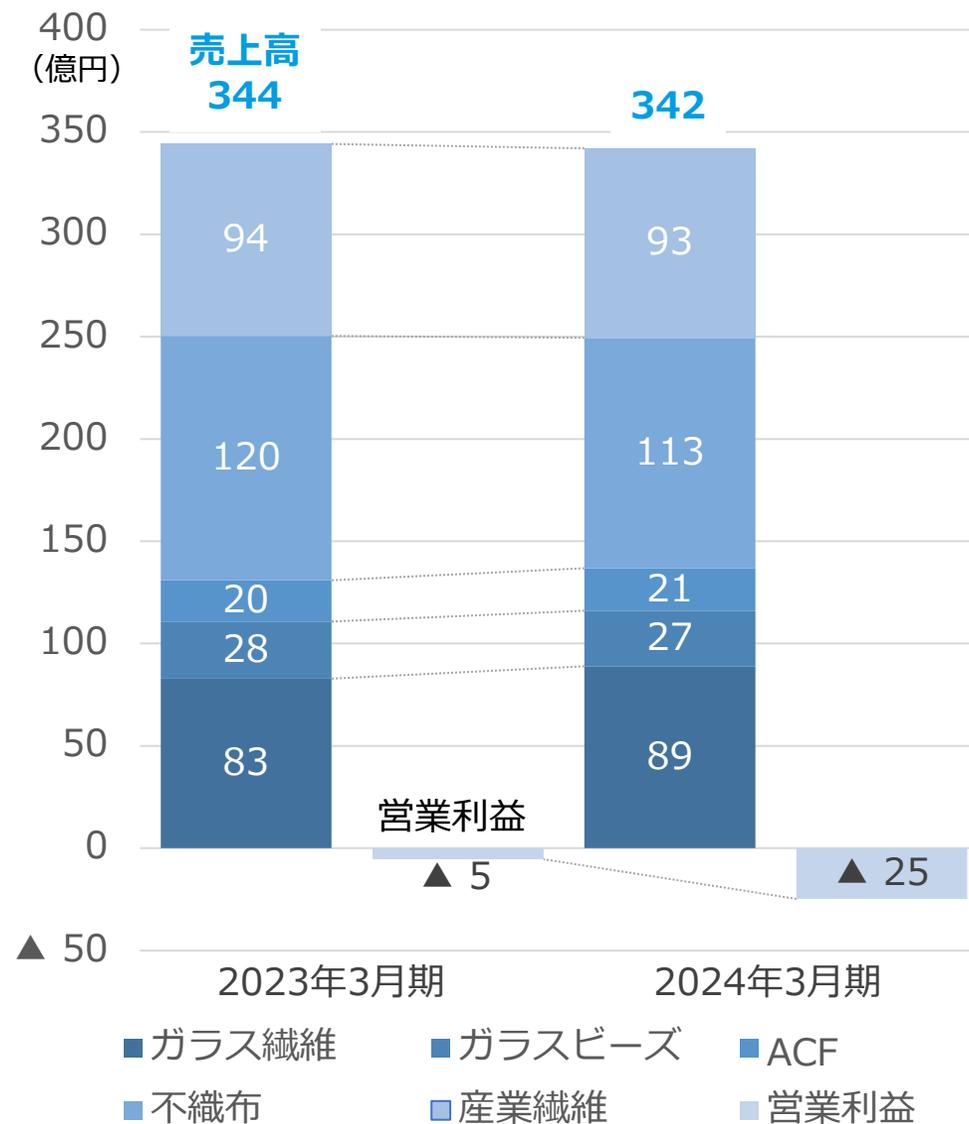
セグメント営業利益

東南アジアにおけるナイロンフィルム販売競争激化、自社在庫調整のための減産によるコスト悪化の影響で大幅減益。



金額単位：億円

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減
売上高	344	342	▲2
ガラス繊維	83	89	+6
ガラスビーズ	28	27	▲1
活性炭繊維 (ACF)	20	21	+1
不織布	120	113	▲7
産業繊維	94	93	▲1
営業利益	▲5	▲25	▲19



ガラス繊維事業

産業資材分野は各用途で堅調。電子材料分野は需要低迷が続いたが、期末に一部用途の販売が回復。

ガラスビーズ事業

道路用、反射材用の販売が減少。工業用は高付加価値品が伸長。

活性炭繊維 (ACF) 事業

浄水器用途で販売が減少したが、VOC除去シートの販売は好調。

不織布事業

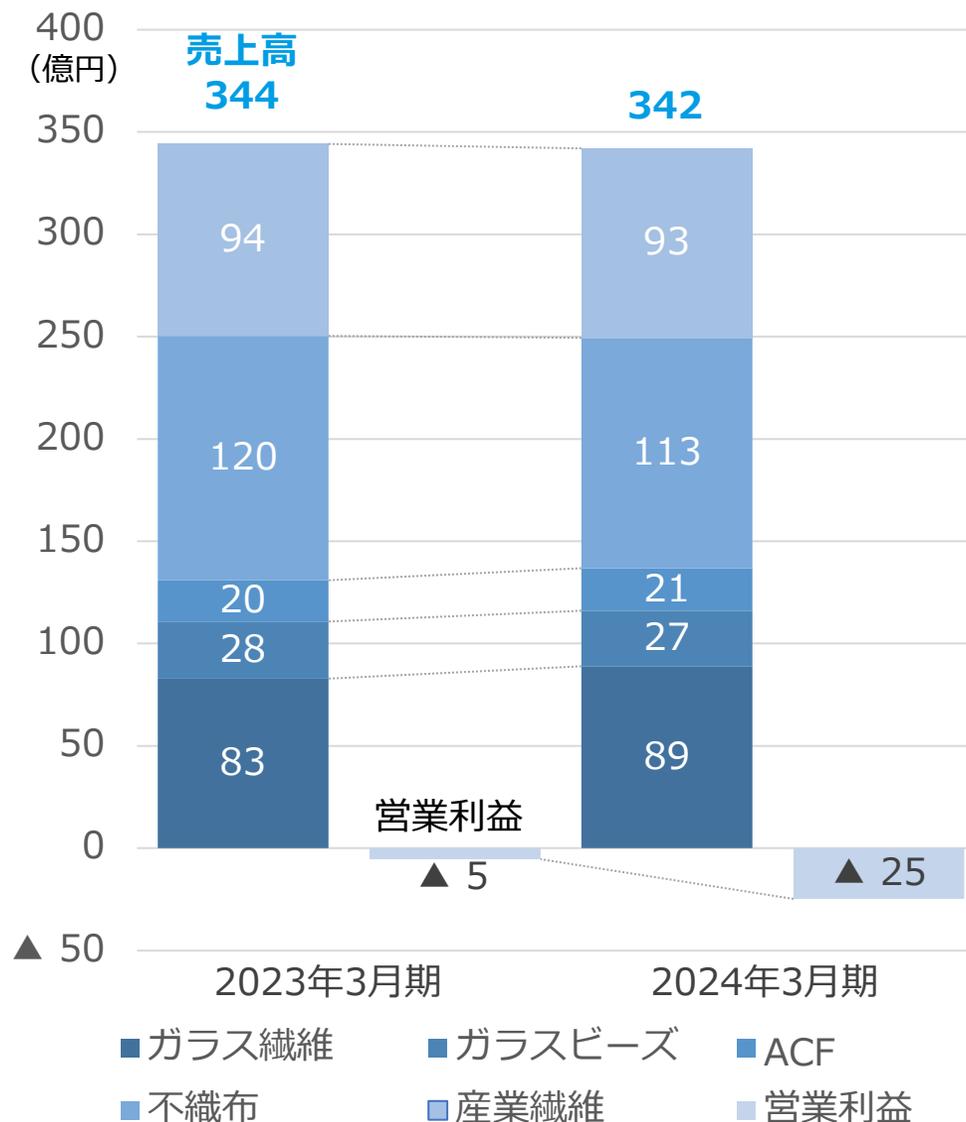
幅広い分野で需要が低迷し、販売が減少。

産業繊維事業

フィルター用途の販売と差別化品の輸出は好調も、高強力糸は販売減少。

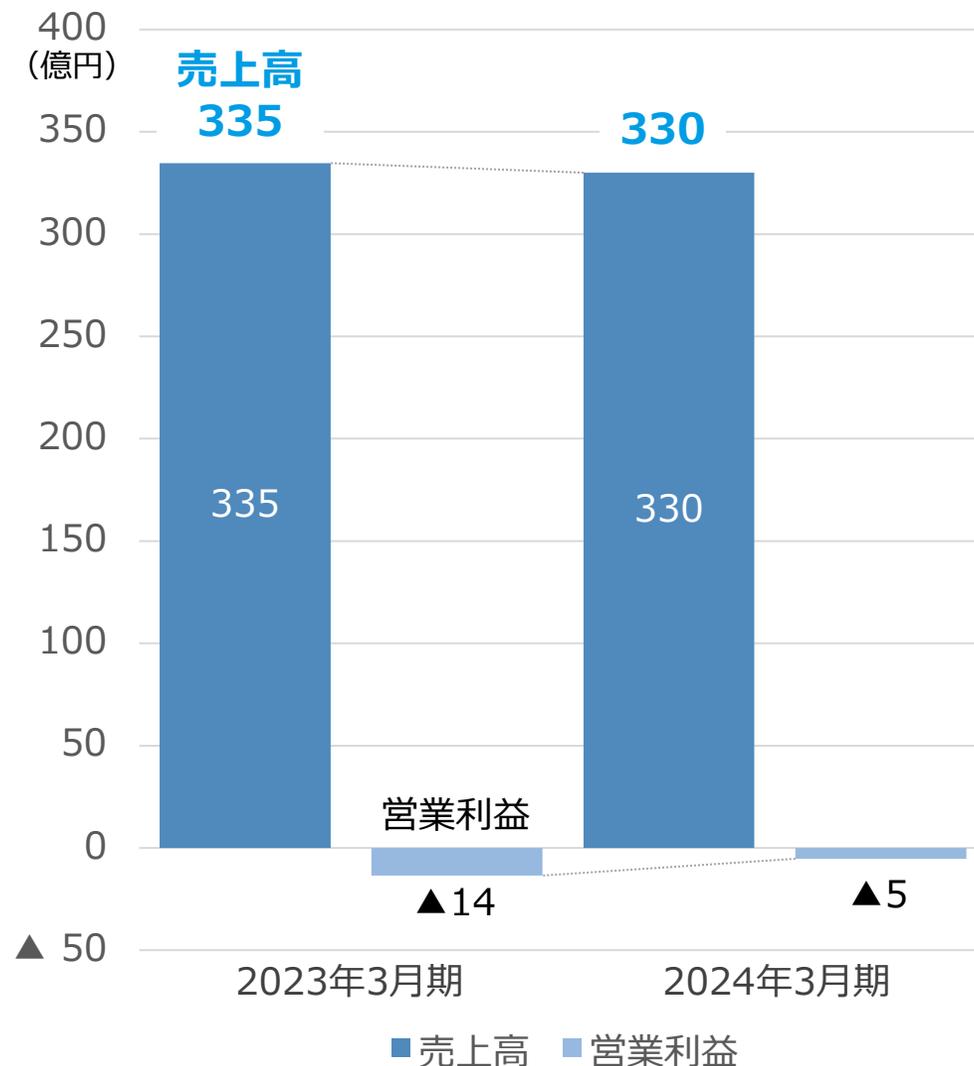
セグメント営業利益

販売減少に伴う在庫調整、減産が続き、コストアップが収益性に悪影響。営業損失が拡大した。



金額単位：億円

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減
売上高	335	330	▲5
衣料繊維・他	335	330	▲5
営業利益	▲14	▲5	+8



衣料繊維事業

ユニフォーム、一般衣料の需要はおおむね堅調であったが、寝装分野、スポーツ衣料分野は不調。

その他事業

産業資材事業は自動車、電気・電子分野の需要回復が遅れ苦戦。グローバル事業はデニム生地 of 輸出販売が減少。

セグメント営業利益

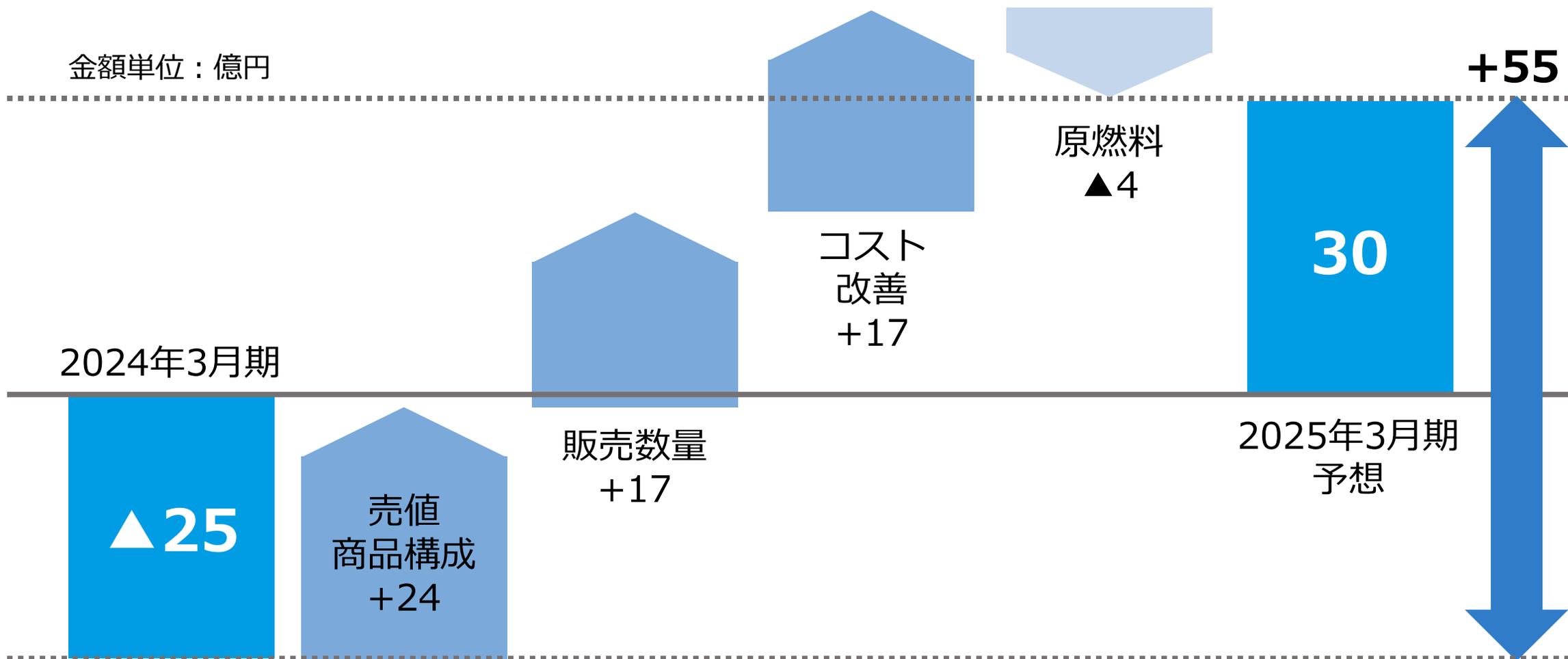
価格改定とコストダウンの効果により収益改善。営業赤字を圧縮。

(金額単位：億円)	2024年 3月期実績	2025年 3月期予想	前期比 増減
売上高	1,183	1,200	+17
営業利益	▲25	30	+55
経常利益	▲10	14	+24
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲54	4	+58

※予想の前提

為替レート (円/米ドル)	145
原油価格 (ドル/バレル)	80
設備投資額 (億円)	29
減価償却費 (億円)	69

施策内容	期待効果
需要回復機会をとらえた販売増と在庫の適正化、生産数量増	
包装フィルム市場の需要回復	++
電子・半導体市場の需要回復	++
経費削減、固定費削減によるコストダウン	+++
価格改定と不採算販売の是正	+++
生産効率の向上	+
高機能・高付加価値製品の拡販（ハイバリアフィルム、高機能フィルム、中空糸膜、高性能ガラスクロスなど）	++



(金額単位：億円)	売上高			営業利益		
	2024年 3月期実績	2025年 3月期予想	増減	2024年 3月期実績	2025年 3月期予想	増減
高分子	511	525	+14	6	42	+36
機能資材	342	363	+21	▲25	▲10	+15
繊維	330	312	▲18	▲5	▲2	+3
その他	1	0	▲1	▲1	0	+1
合計	1,183	1,200	+17	▲25	30	+55

高分子

市況は緩やかな回復が期待されるため、需要回復を受けた販売の回復と、高付加価値品の拡販に努める。採算が大幅に悪化した東南アジア地区の収益改善策として、価格改定と不採算販売の是正に取り組みながら、バリアフィルムの販売や、北米など他地区への展開を通じて収益の改善を図りたい。

機能資材

電気電子用途については需要の底は脱したと見られる。本格的な需要回復のタイミングをとらえ、販売増による収益回復と、生産量の回復によるコストの低減を図る。各事業において価格改定とコストダウンを引き続き実施し、赤字を縮小する。

繊維

引き続き厳しい市況が続く見通しであり、円安の進行で一段とコストが上昇傾向である。価格改定やコストダウンに取り組み、赤字の解消、黒字化の達成を目指す。

ご注意

**本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。**

(金額単位：億円)	2022年	2022年	2022年	2022年	2023年	2023年	2023年	2023年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	296	295	291	298	279	301	285	318
高分子	127	125	124	124	127	133	125	126
機能資材	89	88	84	82	79	86	85	92
繊維	80	81	82	92	73	82	75	101
その他、連結調整	0	0	0	0	0	0	0	0
営業利益	10	5	3	▲4	▲7	▲11	▲8	1
高分子	13	10	9	1	2	▲1	1	4
機能資材	1	▲0	▲2	▲5	▲7	▲8	▲6	▲4
繊維	▲5	▲4	▲4	▲0	▲2	▲3	▲3	2
その他、連結調整	▲0	▲0	▲0	▲0	0	▲0	▲0	▲0

	2022年 1Q	2022年 2Q	2022年 3Q	2022年 4Q	2023年 1Q	2023年 2Q	2023年 3Q	2023年 4Q
(金額単位：億円)								
高分子	127	125	124	124	127	133	125	125
フィルム	86	85	79	84	85	84	82	85
樹脂	31	32	31	32	32	32	35	35
その他	10	8	15	8	11	17	8	5
機能資材	89	88	84	82	79	86	85	92
ACF	5	5	5	5	5	5	5	5
ガラス繊維	24	22	19	18	20	23	23	24
ガラスビーズ	7	7	7	6	6	6	7	8
不織布	30	31	29	29	26	28	28	31
産業繊維	23	23	24	24	23	23	22	24
衣料繊維	80	81	82	92	73	82	75	101
合計	296	295	291	298	279	301	285	318

(金額単位：億円)	2024年 3月期実績	2025年 3月期予想	中期経営計画 最終年度目標 (2026年3月期)
売上高	1,183	1,200	1,500
営業利益	▲25	30	70
ROE	▲13.8%	1.1%	5%以上
ROIC	▲1.9%	2.3%	4%以上

※前提

	2025年 3月期	中期経営 計画
為替レート (円/米ドル)	145	139
原油価格 (ドル/バレル)	80	78